

ハイブリッドリアリティの社会学

Sociology of Hybrid Reality

対面

科目提供大学名	大手前大学
担当教員	谷村 要 (建築&芸術学部 建築&芸術学科 准教授)
単位数	2 単位
最大授業定員	54 名
開講学期	前期 1 時限 (10:50 ~ 12:20) 木曜日 (4月8日~7月15日、4月29日の休日は授業実施)
成績評価	出席 (30%※)、小テスト (20%)、レポート (50%) ※授業中に取り組む課題の提出内容で評価は上下することがある。
テキスト	特になし
参考文献	毎回の授業で提示する。
授業以外の学習方法	<ul style="list-style-type: none"> 講義内で課された課題について真摯に取り組むこと。 講義のテーマ上、新聞やニュースサイト、SNS などを通じて時事問題について知識を得ることが望ましい。
その他の特記事項	特になし
講義概要	<p>ポストコロナで普及した「リモート〇〇」。私たちはデジタル技術で現実での行為を仮想空間でも代替できることを経験するようになった。モバイルメディアの普及で物理空間と仮想空間が重なる状況はできつつあったが、現実と仮想をつなげ、とらえる感覚=ハイブリッドリアリティがポストコロナでさらに進んだ状況といえる。それが何をもたらすのか？この授業ではその問題意識の下、過去のメディア研究の蓄積を踏まえつつ、いま顕在化しつつある私たちの感性をとらえることを試みる。</p>
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに ~ポストコロナ以降のメディア体験から~ 2. メディアと私たちとの関係 3. 情報メディアによってもたらされるリアリティ (1) 4. 情報メディアによってもたらされるリアリティ (2) 5. 情報メディアによってもたらされるリアリティ (3) 6. ネットメディアが作りだすリアリティ (1) 7. ネットメディアが作りだすリアリティ (2) 8. 事例研究 (1) ネットの「祭り」と「炎上」 9. 「いつでも・どこでも・つながる」リアリティの浮上 (1) 10. 「いつでも・どこでも・つながる」リアリティの浮上 (2) 11. 事例研究 (2) アニメ聖地巡礼 12. 現実 - 仮想 - 虚構がつながる／重なるリアリティ (1) 13. 現実 - 仮想 - 虚構がつながる／重なるリアリティ (2) 14. 事例研究 (3) 「リモート〇〇」 15. まとめ